

山梨県富士山科学研究所は、富士山の北がわにあり、やく1000年前に流れた溶岩（ようがん）の上にあります。まわりは高いアカマツの林で、林の中にはマツボックリがたくさん落ちています。植物は自分から歩いたり動いたりできないから、いろいろな工夫をしています。



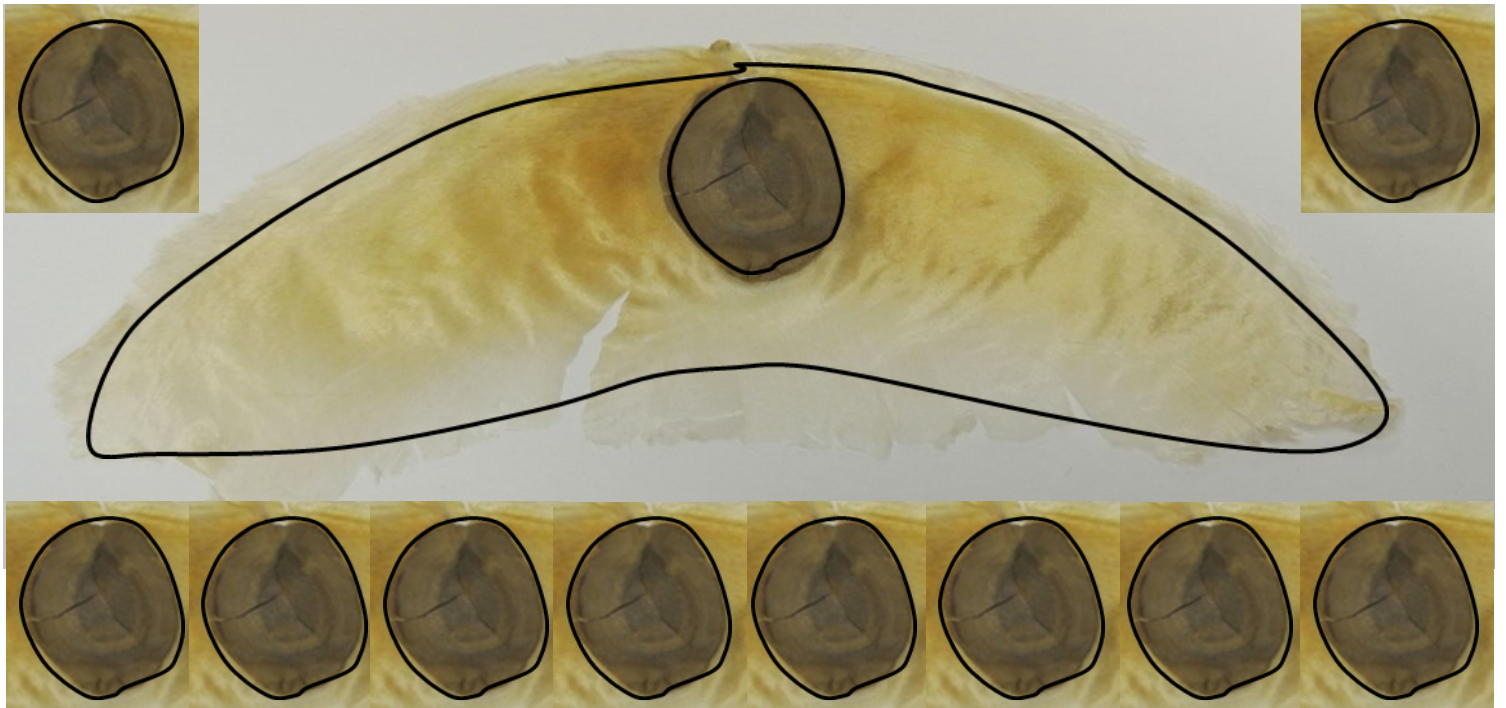
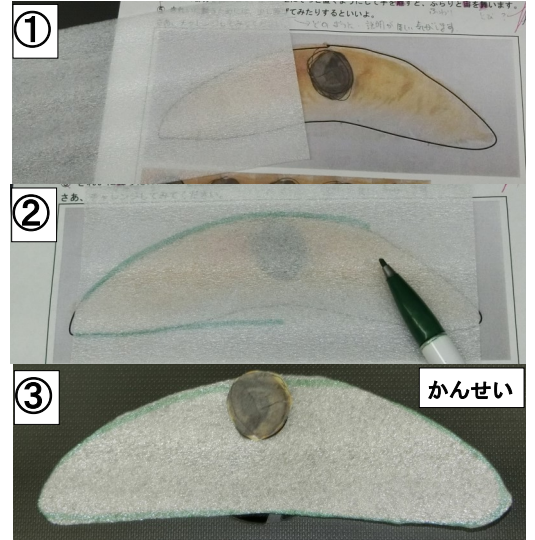
研究所のプログラムをしょうかいします。とぶたねとして有名な「アルソミトラ」という植物のたねを作るとばしてみましよう。（ハングライダーはこのたねをヒントに作られました）

## ざいりょう（道具）

- ①マジックペン
- ②ポリエチレンシート  
（ビンなどを買ったときクッションとしてお店でまき付けてくれる白いシート）
- ③はさみ
- ④のり（両面テープ）

## 作り方

- ①図のように紙の上にポリエチレンシートをおく。
- ②ペンでなぞり、ハサミで切りとる。  
（シートが家になかったら、この紙を切りとってやってみよう）
- ③たくさんあるたね（色のこいものを紙から切りとり、シートに数まいかさねてはりつける。（重くするため）



## とぼし方と研究（けんきゅう）

たねの部分を前にして、空気の上にそっとおくようにして手をはなすと、ふわりと宙（ちゅう）をとびます。ふわりととぼすために、少しV字に曲げたり、たねを何まいかはりつけたりしてみよう。どうするとふわりととぶのかな？ さあ、チャレンジしてみてください。（研究所には実物がありますので、遊びに来てください）

ふわりととぶ植物のたねには、どんな知恵がかかっているのかな？